

【黒大豆の今後の管理ポイント】

黒大豆の初期生育は良好な圃場が多く見られます。

今後の栽培ポイントとして、特に、中耕培土作業は黒大豆の生育促進に重要な作業です。収量・品質向上を図るため、適期内に中耕培土作業が行えるよう計画してください。

1 中耕培土の実施

- ①中耕培土は、根や根粒の発生を促し、倒伏防止につながります。
- ②中耕培土は7月下旬までに、土壌の水分状態に注意し、第一本葉の下まで盛り上げます。
- ③雑草が繁茂し、中耕培土で抑えられない場合は、黒大豆の株を傷つけないよう刈り払うか除草剤を利用しましょう。
- ④開花直前の中耕培土は根をかえって傷めることとなるので、行わないようにします。

2 倒伏防止

- ①強風による倒伏を防ぐため、支柱を立てるなどして株を保護しましょう。

3 排水対策

- ①ゲリラ豪雨の発生に備え、停滞水とならないよう排水溝を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど、普段からの排水対策の徹底に努めましょう。

4 かん水

- ①降雨が無く、ほ場が乾燥した状態が続く場合は、谷が白く乾く前にかん水しましょう。特に、開花期前(8月上旬)から莢伸長期、粒肥大期(9月中旬)までは水分を必要とします。
- ②高温下でかん水すると根が傷むため、日中の暑い時間のかん水は避け、夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしないようにしましょう。

5 病虫害防除

(1) 虫害防除

- ①茎葉を食害する害虫の発生が多いので、十分にほ場を観察し、適期に薬剤防除を実施しましょう。

(2) 病害防除

- ①茎疫病など立枯性病害対策のため、ほ場の排水対策を徹底するとともに、薬剤防除を実施しましょう。
- ②茎疫病対象薬剤は予防効果主体のため、できるだけ発病前または発病初期に散布

しましょう。

5 追肥の施用

- ①生育後半の窒素を補い、生育を促すために追肥を行いましょう。
- ②多く追肥を施用しても、茎葉のみが過繁茂になり青立ちの原因となるので生育量に応じた適量を施用する。

追肥量の目安（慣行型） 8月中旬 NK化成2号 40kg/10a 施用
（JA丹波ささやま「丹波篠山黒豆栽培こよみ」より）

お問い合わせは JA 丹波ささやま 営農指導課
079-556-2355